

20 甚土第1001号

平成20年10月14日

国土交通省道路局長 殿

甚目寺町長 村上浩司



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

このことについて、平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼がありましたので、別添のとおり提出いたします。

道路は豊かな生活や活力ある経済活動を支える基本的な社会資本であり、その整備は地域住民が等しく熱望するところでもあります。

また、少子化・高齢化といった社会構造の急激な変化や近年多発する自然災害、今後ますます増大が見込まれる道路の維持管理などに的確に対処し、安全で安心な社会を構築していくためにも、道路の整備や維持管理を計画的に進めていく必要があります。

本町では、コミュニティ相互の交流を促進し、地域の発展を図るため、道路整備促進を中心に各種活性化施策を展開しているところであります。

つまり、幹線道路の整備とともに、幅員の狭い郷中道路の整備にも補助制度が必要だと考えており、さらに郷中の狭小道路の解消や用排水路の暗渠化による歩道整備等、道路は生活環境を改善する機能もあるため、快適に暮らせるまちづくりのためにも、生活関連道路の整備に関する施策の展開も必要だと考えます。

地域間の交流を促進する道路、通勤・通学など日常生活に密着した道路等、道路は生活に密着した基盤施設であり、町民生活の向上を図るためには、道路整備をなお一層促進する必要があります。

よって、国におかれては、道路の整備、維持管理の重要性を十分認識し配慮を行うよう要望するものである。

○現状

本町は、国道３０２号が開通してから交通の流れが大きく変化しており、交通量も著しく増加して都市計画街路を中心に県道及び幹線町道を先行的、計画的に整備する必要がある。

また、生活道路は、幅員４ｍ未満の道路が多く、交通安全施設等も不十分な状況で、郷中狭小道路の解消や用排水路の暗渠化による歩道整備等の施策が住民より熱望されている。

しかし、下水道事業の進捗状況を見ながらの整備となるため計画が思うように進んでいない現状となっている。

県道が幹線道路となっており、交通安全施設等の整備が住民より熱望されており、交通量の増加により危険度も高まっているが、整備が進んでいない状況である。

○課題

- ・ 名鉄津島線交差部に渋滞がある。
- ・ 幹線道路の整備が遅れており、道路交通の安全性が向上しない。
- ・ 町北部に位置する清洲西インター付近の県道（給父清須線）で朝夕において交通渋滞が発生しており、国道３０２号まで影響を及ぼしている。
- ・ 石作東交差点には右折レーンがないため、朝夕において交通渋滞が発生している。

②-2 地域の目指すべき将来像

- ・「安全安心なまちづくり」
- ・「福祉のまち、住民の皆さんが健康で思いやりのあふれるまちづくり」
- ・「地域経済・地域産業の活性するまちづくり」
- ・「心の教育と教育立町」
- ・「行財政改革」

を五つの柱として、町民と交流を持ちながら、一緒になってまちづくりを推進する目標をもっている。

また、国道302号と交差する名鉄津島線の高架計画、都市計画街路（西今宿東条線）の都市計画上の鉄道高架などと甚目寺町の将来のまちづくりは整合を図っていく必要がある。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

愛知県甚目寺町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
まちづくり 交付金事業	道路事業(駅前広場、歩道設置、自転車駐車場)、甚目寺小学校耐震補強事業、駅北側改札口整備事業、まちづくり活動推進事業	- 駅前空間の整備を行ったことによる、交通結節点としての魅力や施設の利便性向上 - 駅南北の自転車駐車場整備による利便性や景観の向上と放置自転車をなくす	
歩道整備事業	小学校の周辺の郷中狭小道路において用排水路の暗渠化による歩道整備を行い、生活道路の整備に努めている。	通学する児童生徒の安全が確保され地域住民の生活環境が改善される。	
道路整備事業	地域住民にとって最も関係の深い郷中狭小道路の改良について、開発業者と連携を取り、交通安全・防災・生活環境の視点から整備を図る。	防犯防災上の基本であり、地域住民より安全安心に暮らせるとの評価が期待できる。	